

「HSK 季刊わたぼうし」 第34号

発行者:わたぼうし連絡会  
発行日:1994年(平成6年)7月25日 '94 夏号

～北陸障害者定期刊行物協会～

第34号のテーマ 電話

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を超えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

## わたしと電話

### 私と電話

### 地域住民・聴覚障害

聴覚障害者にとって電話というものは目の前に獲物がありながらどうすることも出来ずにただ手をこまねいて眺めているだけの物に近い。

聞こえの程度にもよりますが、聞こえない、聞き取れないという人は殆ど電話を取ることもなく一生を終えるのではないのでしょうか。

私の場合は、近くに住んでいる親近者、友人の声でないと殆ど理解できなかった。ところが、技術の進歩はめざましく、こんな私でも電話(正確には電話回線)を使用することが可能となりました。

パソコン通信、FAX、ボリューム付き電話の登場である。それらをすべて所有している私はなんと贅沢者だろうと思う。いや、障害があるからこそそれを補う物には金をかけたかったのが正直なところである。

コミュニケーションに飢えていたのだから、聴覚障害者にとっては直に会わずに人と「こんにちは、元気?」「うん、元気だよ」といった簡単なやりとりができただけでも無上の喜びなのですから。

電話が世の中に登場して久しいのですが、この便利な発明の為に社会が便利になっていく反面、聴覚障害者がどんどん取り残されていった事は皮肉なものです。

ノーマライゼーションの考え方によって、万人に合やす社会づくりをめざすのであれば、技術的に「目で見える電話」が普及することが一番の近道に思えます。科学技術はこうだったところにこそ力を注ぐべきでないのでしょうか。

電話というものが、健常者、障害者全体に平等に使えるようになる日がくる事を願いますし、私自身も少しずつでもそうなるよう努力して行きたいと考えています。

## 電話と私

### 地域住民・肢体障害

リーン、リーン、リーン、母ちゃん電話やぞ、出てくれんか。

身体の不自由な私には、電話に出るには時間がかかり切れてしまうのです。

間の悪いことに家族の留守の時に、よく電話がかかってきます。

「ハイ、ハイ、いま、出ますよ。もう少し長く呼び出してよ。」と言いながら受話器に手を伸ばす途端に切れてしまうことがよくあります。そのくせ、間違い電話や〇〇商事ですが、儲かる話を聞きませんか、など歓迎しないのが、よく繋がります。切れた電話はどこからか、誰からか、用件は何か一電話とにらめっこしながら一日気を揉んでいるのです。そんな話を聞いたのか、息子がコードレスホンを買ってくれました。台所へ、風呂場、トイレまで持ち歩き、いつでもどこでも話せるようになり、知人、友人との横の揉りも広がり、新しい仲間も増えており、楽しい日々を送っております。

身体の不自由な我々には、電話は欠くことのできない必需品なのです。

近い将来、家庭にもテレビ電話も夢ではなくなる。先方の顔を見ながらの対話もいいだ

ろうな……。でも年老いた三枚目の田舎者、爺ではアレルギー症になるかもね……。

寝ころんだままでも話せる今の電話が我々には一番よいのではと、いろいろと考え、夢を見ている今日この頃です。

リハビリの 汗から笑顔 見えてくる (専ちゃん)

## 日常生活に役立つ福祉制度

以下の事項について、交付、助成が行われますが、内容の詳細については市町村役場の福祉課へご相談下さい。

### 補装具の交付

障害による欠陥を補うために装具の交付、修理を行う制度です。

- ・車いす 下肢障害3級以上
- ・電動車いす 下肢に加えて両上肢障害2級以上
- ・歩行器、歩行補助つえ、収尿器、頭部補護帽、座位保持装置、ストマ用装具、他

### 住まいの制度

在宅生活の便宜を図るためや、住宅の確保のために用意された制度。

- ・生活保護または市町村民税非課税世帯  
25万円
- ・所得税非課税世帯  
20万円

公営住宅入居優遇措置

- ・新築募集のとき当選率3倍の優遇措置を講ずる。
- ・対象者 身体障害者で介助を必要としない方に限る。

住宅金融公庫融資増額

- ・対象者 身体障害者(4級以上)と同居する世帯では125万円以上
- ・割増融資額 150万円

### その他の制度

- ・交通割引：航空運賃・JR運賃・私鉄運賃・タクシー運賃・有料道路通行運賃
- ・入場割引：のとじま水族館・辰口温泉プール・兼六園・県民海浜プール
- ・通信減免：NHK放送受信料の減免・NTT104案内の減免・他の助成
- ・自動車免許取得訓練費・自動車改造費・エアーマット購入費・税金関係
- ・相続税の障害者控除・所得税の還付・所得税、市民税の障害者控除

## 就労について

- ・ 就労支度援護：養護学校や職業訓練校を経て就労する場合に2万円が支給される。
- ・ 就職資金貸付：職安経由で就職する場合に準備費用として貸し付けるもの。
- ・ 身元補償制度：身元保証人がない場合、雇用促進事業団が身元保証契約を結ぶ。障害者の通勤を容易にするための措置に要する費用の4分の3が支給されます。
- ・ 宅設置 世帯 900万円 単身 400万円
- ・ 住宅賃貸 世帯 月10万円 単身 月6万円 5年間
- ・ 駐車場賃貸 月5万円 5年間
- ・ 通勤自動車の購入1台120万円（両下肢障害者200万円）
- ・ 通勤用自動車の賃貸 月5万円 3年間(両下肢障害者は8万円)

## サークル・仲間紹介

### 声のボランティア「そよ風」

そよ風は「視覚障害者との親睦をはかり、ともに福祉の向上につとめること」を目的とする声のボランティアのグループです。

発足は平成2年4月、羽咋市盲協会(ひとみ会)の方々との「羽咋市広報を音訳して欲しい」要望により、メンバー4人でスタート、毎月の市広報を持ち回り各家庭で読んでいます。

平成3年4月「メンバーを増やし、小説、説明書等要望のあるものを読みたい」との意見により、市広報で募集、現在は13名で頑張っています。

現在は、市広報、新聞コラム、地方ニュースは毎月、10人の「ひとみ会」の方々にダビングをして発送、市広報一本は市文化会館内に設置されています。盲人の方々からも「羽咋市に住んでいて今まで市の様子がわからなかったけれど、今はよくわかってとても嬉しいです」と喜びの声もいただきました。

「ひとみ会」との懇親会も行います。平成5年度はテーブルマナーでした。現在までに多数のものを音訳しましたが、毎月の定例会などで「ひとみ会」の要望をお聞きしたりまだまだ勉強中のグループです。

この「季刊わたぼうし」でおなじみのHさんが所属していらっしゃる「富山生きる場センター」へ取材に行ってきましたので、報告いたします。

この施設は、在宅の障害者が通所して作業を行っています。建物は普通の民家を改造した程度です。中にはいると、パソコンがずらりと並んでおり、印刷機、FAXとまるで印刷屋さんの一角にいるようです。

このセンターに通ってくる人たちは、在宅の脳性マヒの人たちがほとんどです。作業内容は、ワープロサービス(広告チラシ、出版物、テープ起こし)印刷、名刺製作、年賀状印刷、手作り石鹸、講演会、コンサートの企画、バザー、蚤の市等の出店、パソコン教室などを行っています。

その中で、主力はパソコンの入力作業が主であり、在宅の障害者にも入力作業を提供されています。私も一昨年からこの作業所の入力作業を回していただいております。

それに2年前からパソコン通信のホスト局「LIVEネット」を開局し、幅広く一般の人たちへ情報を提供したり、また反対に意見を書いてもらったりして自宅にいても、パソコン通信を通じて交流を深めています。

## ハート・サイド・ネットワーク「日々の生活」をバリアフリーに

最近、バリアフリーという言葉をよく耳にします。街の歩道や建物の玄関・廊下などの構造をさまざまな障害を持っている人にも使えるようにしよう、使いやすくしよう、という意味で使われています。これは障害を持っている私たちにはたいへんうれしいことです。しかし、実際の日々の生活をするにあたって、もっと早くに変えてほしいことがほかにもたくさんあります。たとえば、どこかに行きたいと思っても家族の都合がよくなければ行けません。友だちと出かけたいたいと思っても、その友だちをどこかで見つけなければなりません。

アメリカのハワイ州では、障害を持っている旅行者でも行きたいところへ行けます。それは、電話一本でハンディバンがホテルに迎えに来てくれるからです。それも非常に安い料金です。そして、重度の障害者が家族と別に一人で生活することも、そんなに難しいことではなくなっています。

そういったことを、「外国はいいね」と指をくわえて見ているだけではいけないと思います。「理想的で快適な生活」を私たちの活動で作りに出していかなければなりません。これが私たちの考え方です。

生活のこと、仕事のこと、行きたいと思ってもいけない移動のこと、友だちのこと、そして、親が亡くなった後のこと、……考え出せばきりがなくある私たちの日々の暮らしの問題。障害を持っている人も持っていない人も、知恵と力を出し合って、行政に訴えるところは訴えて、ともに協力して「理想的で愉快的な生活」をしようじゃありませんか。

ぜひ、仲間に入って下さい

## ★会員と会費について

この集まりは会員制とします。入会の資格制度は何もありませんが、会費を払うことと、自分の時間の許す範囲で、自分のできることで積極的に活動に参加して下さい。会費は年間1,200円です。※家族で入会される方は一家族で一会員とします。

## ★委員会の活動内容

会員が自分たちで活動の内容を決めて行きます。この呼びかけに参加した人たちは、取り組みたいテーマがあらかじめいくつか決っていますが、それ以外にも自分で取り組んでみたいテーマがあれば、どんどん意見を出して活動することができます。

## ★参考に今決まっている事を紹介します。

1. 福祉の学習と困り事の相談の委員会
2. ふれあい委員会(多くの人が出会える場所づくりや人集めを担当する)
3. 職業訓練の委員会
4. 広報や企画・事業委員会
5. 事務局委員会

## ★具体的な目標

1. 公営の障害者住宅(アパート)の早期増設
2. 働く場の開拓や企業への職業の促進
3. リフト付きハンディバンの低料金運行
4. センターの建設(自分たちで設計・運営)
5. ケア付き住宅の建設

## ★会の名称の意味                      Networking

地域の人々が社会福祉活動やさまざまな活動を通して触れ合い、互いに結びあうことによってネットワークが創られ、あくまでも自然に、そして共に歩むことができる社会生活環境の創造を目指すものである。

### Self Cleation

委員会では各々ができる範囲で積極的に活動に参加し、その中で相互に学び理解を深め、そして個々の成長及び創造を目指すものである。

### Heart Side Network(ハートサイドネットワーク)

上記の基本理念を基に、例え地道でも一人一人の口伝えにより本当に主旨に賛同し、心から参加してくださる人々によってネットワークづくりをしてゆきたい……於いてはそれが将来に向けて様々な問題を解決していく上で揺さぶるぎない大きな力になるだろうとの思いから命名しました。福祉はゴールなきマラソンレース＝

## みんなの広場

### 常に100%の中で

### 地域住民・肢体障害・印刷業

私たち人間は、誰しも遅かれ早かれ成長し、大人になります。それを見守り続けてやるのが、両親、学校の先生、兄弟、姉妹、そして何よりも周りの人の暖かい触れ合いではないでしょうか。

春4月、小さな体で大きなランドセルを背中で背負って、毎朝、学校へ行く姿を見かけます。

何ともあどけなくて、かわいい姿でしょう。両親からすれば学校から帰ってくるまで心配でたまらないはずです。特に現代の社会は交通事故や誘拐、そしていろいろな誘惑など、子供に対して危険が一杯、両親は心配でおれないと思います。それでも両親は甘やかせず、手を出せないのです。

どうして普通の子供に強い調子で接することができるのでしょうか。

私もまだ結婚もしていないし、もちろん子供もいないので、よく解りませんが、多分、健康な普通の子供はそれだけの耐えられる強さが身に付いていくからだと、親が判断するからだと思います。子供もそれに答えて耐える心や体になっていくのではないのでしょうか。

毎日毎日、違った人々と出会い、いろいろな出来事や体験を経験しながら一ヶ月、三ヶ月、半年、一年と月日が経つに連れて子供は、社会の道徳や常識を学んで成長し、一人前の大人になっていくのではないのでしょうか。常に100%の一般の人間社会に生活していく、それが一番大事ではないかと私は思います。

ところで障害者の場合はどうでしょうか。生まれてから大人になるまで普通の子供より甘やかされたり、一般社会の人々と隔離して、人生を歩んできています。両親、学校の先生、兄弟、姉妹、それに周りの人々たちとも、なかなか触れ合うことができないのが日本の現実ではないのでしょうか。

体に障害があるから一般の人々と接することができない。できないのではなくて、やらせないのではないのでしょうか。特に両親が危ないからとか、危険だからとか、迷惑がかかるとか、この子は身体に障害があるから、能力が劣るからとか、などと理由を付けています。それは両親のエゴではないのでしょうか。何か知らず知らずのうちに自分の子供を拘束し、駄目にしてしまう。そして障害者も自分の意見を言わない。両親の言いなりになってしまいます。

それでは障害者がいつまで経っても甘えっぱなしになると思います。もっと障害者を一般社会へ出してやる。もちろんある程度の制限は必要ですが、人々と触れ合うことをやれば、その子の持っている能力(才能)が伸びるはずです。そうすることにより、一般社会の障害者に対する理解も変わってくると私は思います。

障害者の能力(才能)は障害者個人、個人によって違います。10%から30%の能力(才能)しか出ない障害者もいれば、60%、70%、80%の能力(才能)を持った障害者もおります。一概に言えませんが、常に100%の一般社会に生活し、一般の社会人と出会っていけば、触れ合うことにより、100%の能力に近づくと私は思います。

100%にならなくても、今、障害者が持っている能力(才能)がより向上するのでしょうか。

一般社会人のあいさつ、道徳、常識、社会の仕組みなどが身に付くと思います。

特に某障害者施設に長くいる人たちは理屈は人一倍言うのですが、何かを頼んだり、考えてくださいと言うと、出来ない、どのようにしたらよいのか解らないといった答えしか返って来ない。それも20歳後半から40歳前半の障害者に多い。これは障害者の甘えなのか、それとも何も知らないのか、とにかく自分を捨てているように見えます。何とも情けないものです。障害があるとか、ないとか、そういう問題ではないのではないのでしょうか。ただ生きていくだけにしか私には見えないのです。

もっともっと自分の言いたいことを言い、自己主張をしてもいいのではないのでしょうか。それが私の考える完全参加と平等だと思います。

一般社会人のあいさつ、道徳、常識、社会の仕組みなどを身に持っていれば、甘えずに経験(体験)生きていけると信じたい、出来なくても努力したら、ある程度出来るのではないかと私は思います。

周りの人たちも手を出すのではなく、一般社会人のあいさつ、道徳、常識、社会の仕組みなどを教えてやるのが両親、学校の先生、兄弟、姉妹、周りの人々の責任ではないでしょうか。

しかしながら、この常に100%の中に入れるということは障害者本人の努力と辛抱が欠かせないと思います。一般社会人と触れ合っていく、そこには絶対甘えは許されませんので、かなり障害者の体に無理を背負わなくてはなりません。それに何よりも一番大事なことは、両親、学校の先生、兄弟、姉妹、そして周りの人々の理解してくれるかでしょう。

特に、重度障害者の両親、それも母親がその無理をしている姿を見て、耐えることができるかどうかでないではしょうか。

それもできるだけ手を出さずに見守ってやるのが、本当の人間愛(母性愛)ではないのでしょうかと私は思います。

## 中国の旅

## 地域住民・主婦

経済開放を合い言葉に世界に向けて始動している中国は発展途上国、まさに日の出の国でした。日程に伴い金州区区役所へ表敬訪問中国婦人との懇談会、海産物等の貿易会社と加工工場、紡績工場、女性が管理している縫製工場、大連市経済開発区等の視察をし、経済開放の政策のもとに女性も参画して働いている姿を見てきました。

バスやタクシーやトラックや自転車やリヤカーやロバが行き交う道路はアスファルトに舗装整備されており、建築中の高層ビルや昔ながらの石レンガの家に煙突と並んで取り付けられているアンテナを目にしたとき、いながらにして時代の流れを見るようでした。

北京では故宮博物院や明の十三陵や万里の長城を観光し悠久の歴史に思いをはせ、感無量でした。帰国して家の仏壇を見たとき芸術文化が中国から伝わり日本で完成されたことを改めて知り、仏壇の細工に見入ってしまいました。



5泊6日間の短い旅でしたが、不便や不自由ということも知らず、あり余る物に囲まれて生活している日本の子供たちに見せたい国、私には再度おとずれたい国になりました。

## 信じることを忘れないで

## 障害者支援施設・利用者

名前は無くてもいい  
地位や名誉も無くてもいい  
でも 信じることを忘れないで  
愛することを忘れないで  
一步一步進んでいこう  
問題は何になるかではない  
何をする人になるかなんだ  
ころんでもいい いざってもいい  
でも 信じることを忘れないで  
愛することを忘れないで  
一步一步進んでいこう  
問題は苦しみから逃げることじゃない  
裏切られてもいい  
ふられてもいい  
でも 信じることを忘れないで  
愛することを忘れないで  
一步一步進んでいこう  
問題は過去を悔やむことじゃない  
過去をどう生かすかなんだ。

## 健常者から見た障害者

## 地域住民・会社員

まず、「健常者から見た障害者」と読んだとき、皆さんはどう思いましたか？

批判、中傷、美化、ろくでもない話、ボランティア等など、具体・象徴的に関わらず、いろんな意見や感情を持たれると思います。その時に自分が思った印象はそのまま、健常者なら障害者に対して、障害者なら健常者に対して持っている印象だと私は思います。改めて皆さん伺います。

「健常者から見た障害者」と読んだとき、皆さんはどう思いましたか？

相手の立場を理解する手っ取り早い方法としては、実際に相手の立場になってみるのだと思います。視覚障害を理解しようと思えば、丸一日目隠しをしていつもの生活をしてみるなどなど……

私は前に会社の階段を目隠ししてどこまで上がれるか試したことがあります。結果としては、2, 3段を上がったところで頭上に壁を感じてしまって、とうとう4段目を上がることができなかつたのです。今思えば怖かつたのだらうと思います。

こんな体験をしている私はある意味で、視覚障害者を尊敬しているのですよね。

何故なら、いつも見えないことに対する恐怖と戦っているってね。

そこでいきなり冒頭の話に戻ってしまいましたが、私が障害者に対してどう思っていることとは、「閉じ籠もっている人」なのですよね。自分が障害を持っていることを恥ずかしく思っているから、街に出てこないってね。

でも中には、自分の障害を恥ずかしいものとは思わず、活発的に仕事や生活をやっている人がいるんだってね。そういう人だったら尊敬できるし、障害者だっていう意識が自然になくなくなると思う。

でも一般の人はそんなことが分かるんだらうか？この人たちとの出会う機会がないに等しい状況で理解できるのらうか？

自分を理解してもらおうと思ったら、泣き叫ぶよりも自分から動くことだと思っているのですがね……「健常者から見た障害者」早くお互いに良いイメージになればなあって私はそう思っています。

## シリーズ・キッチンさんの駅弁食べ歩き1 「天ぷらそば」

キッチン

三年程前の冬の頃だったと思う。

東北線福島駅のホームで下り電車を待っていると、そばの匂いがした。その匂いをたどって行くとそば屋があった。そば屋を見つけるとつい食べたくなる私としては、当然食べに行くことにした。

天ぷらそばを注文すると「天ぷらはえびか？」と意外な質問が来た。これはいったいどういうことだろう。そこで私も「えびの他に何があるんですか。」と聞くと「魚の天ぷらになるよ。」とのことだ。

これは珍しい、そこで「では魚の天ぷら下さい。」と迷わず注文した。

今もいろいろな駅で、そばやうどんを売っているのに出会うが魚の天ぷらを置いている所は他に見たことがない。

いろいろな所でそばを売っているが、美味しいところに出会える確率は半分ぐらいだろう。金沢駅の「白山そば」は美味しい方だと思う。

## 嫌われボランティアシリーズ2

その⑤ 忙しがりボラ：いつも「忙しい、忙しい」とブチっている人。

その⑥ ボスボラ：仲間を支配することばかりを望み、他の人と(リーダー)を交代しようという気がない。

その⑦ 目立ちがりボラ：目立つ活動だとやる。

その⑧ 「あなたは対象者よ」ボラ：対象者が何か社会のお役に立ちたいと思ってもさせな

その⑨ 「ボランティアとは？」ボランティアとは一体なんだろうという疑問を出すだけの悩み専門。

「ボランティア情報誌より」

## これからの原稿募集テーマについて

- ・思い出の一曲 (音楽と私、今好きな歌)
- ・家 族 (父の思いで、母の思いで)
- ・私のティータイム (ホットする一時、好きな時間)
- ・心に残る言葉 (ことわざ、人の言ったこと)
- ・私の介護体験 (家族、施設での介護、行事、イベント等で介護体験を募集します。)

※NO36(来年2月発行予定)は「HSK季刊わたぼうし」創刊10周年記念号です。発行のきっかけ、編集委員のエピソード、思い出の創刊号の原稿、人気があった原稿を掲載する予定をしています。皆さん、お楽しみに。

## 事務局だより

どうなっているの？ 日本の政治。この一年間に首相が3人目です。細川首相、羽田首相、村山首相、でしょう。国民のことよりも政治家たちの権力争いしか考えていないようです。急激な円高(とうとう90円台になった)、長期的な不況、大学を出ても仕事がない、福祉関係では授産施設、作業所では仕事が大変減ってきているようです。このような大変な時期に自分たちの権力争いをしていないで、国民生活に目を向けた政治をやって欲しいと思います。

(Z.O)